

令和2年度第1回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和2年5月13日(水) 14時～15時55分
2. 会議場 松浦市役所 4階 第2・3委員会室
3. 出席者

松浦市長	友田吉泰	
松浦市教育委員会教育長		今西誠司
〃	教育委員	平原章宏、前田弘子、金井田秀規、氏山智美
〔事務局〕	学校教育課	宮島哲郎、松本政美、佐藤利枝、古里拓也
	教育総務課	石黒修子、反田隆二
	生涯学習課	松永秀樹
	文化財課	内野義
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 総合教育会議について
 - (4) 協議
 - ① 松浦市の教育施策の大綱について
 - ② GIGAスクール構想の加速による学びの保障について
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり(要点記録)

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	ただ今から令和2年度第1回松浦市総合教育会議を開催いたします。はじめに、友田市長がご挨拶申し上げます。
市長	<p>本日は令和2年度第1回総合教育会議のご案内をいたしましたところ、委員の皆様方にはお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>今、世界的な広がりを見せている新型コロナウイルスの感染拡大により昨年度から新年度まで学校の臨時休業となり、子どもたちの学ぶ機会が奪われていることを大変危惧しております。今週から何とか教育活動を再開することができましたが、今後も感染のリスクがゼロとなったわけではなく、いかに感染者を出さない取組をやっていくのかという事が必要になってまいります。3月から4月にかけて学ぶ機会を失った子どもたちへの対応をしつつ、感染させない取組をしなければならぬと思っております。感染の脅威が経済活動など大きな影響を及ぼしていますが、一方で、この事態が収束した後は、我々が経験したことの無い新たな可能性が広がるのでは無いかとも思っております。とりわけ、テレワークなどは実証実験になっているようにも思われますし、学習環境においても、後ほど議論していただくGIGAスクール構想など、そういったものを活用して平時に準じた補完をすることができる環境を整えてゆくことになるのではないかと、またこれを契機として、都会への一極集中から地方への人の還流につながるのではないかと、といった期待もしております。</p>

教育総務課長	<p>いずれにしても、地域の教育力の高さが人の移入や定住につながりますので、教育委員の皆様には、今後とも松浦市の教育行政についてご指導とご協力を賜りたいと思っております。</p> <p>本日の協議事項は、「松浦市の教育施策の大綱について」と「G I G Aスクール構想の加速による学びの保障について」皆様のご意見を賜りますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、今西教育長にご挨拶をお願いします。</p>
教育長	<p>教育委員を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。本日は、令和2年度初の総合教育会議ということで、こうして友田市長との協議の場を設けていただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃より教育関係の施策にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。市長がおっしゃられましたように新型コロナウイルス感染拡大予防のため教育委員会関係施設の閉鎖をしてみりましたが、今週月曜日から市内小中学校、公民館、図書館、体育施設など再開しているところです。私も一昨日・昨日に市内4校を見て回り、3密を防ぐ対策を講じながらも、子どもたちが本当にうれしそうに勉強したり給食を食べておりました。子どもが居てこそその学校だと改めて実感しましたし、子どもたちにもこうして普通に学べることのありがたさを実感させたいと思っております。今後も感染防止に努めながら子どもたち及び市民のため努めてまいります。</p> <p>さて本日は、今後5年間の松浦市の教育指針となる第2期教育振興基本計画の主な取組についてお示しをしながらご意見をいただきたいと思っております。また、G I G Aスクール構想による学びの保障につきましても、今回の新型コロナウイルス感染症によって生じた課題等も踏まえながら今後のありかたについて協議したいと考えております。</p> <p>結びに、教育は人づくりとまちづくりの根幹と考えます。</p> <p>友田市長におかれましては、今後も引き続き、教育行政推進に対するご尽力をお願い申し上げます。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございました。それでは、これから協議に移らせていただきますが、議事進行につきましては、松浦市総合教育会議運営要綱第5条の規定により、友田市長が行います。よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>規定により、私の方で、議事進行を務めさせていただきます。</p> <p>まず議題1「松浦市の教育施策の大綱について」協議に入ります。</p> <p>教育総務課長から本議題についての説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>本題に入ります前に、お配りしております「第2期 松浦市教育振興基本計画案」の基本目標とそのための施策について説明させていただきたいのですがよろしいですか。それでは、27ページをお開きください。令和2年度から5年間の基本目標を定めております。その目標を達成するための具体的な施策を次のページ以降に第2章として記</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>載しておりますので、主なものについて各課説明してまいります。</p> <p>学校教育課分について28ページ以降をご覧ください。</p> <p>基本目標Ⅰ「生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体）の育成」として4つの施策を挙げております。</p> <p>施策1「児童生徒の確かな学力の育成」につきましては松浦市の最重要課題と考えております。「全国学力・学習状況調査、県学力調査を踏まえた授業改善」の項に授業内容への理解に関するアンケート結果を示しており、第1期計画までは「授業の内容がよくわかる」と回答している児童生徒の割合を目指す成果指標としておりましたが、第2期では、全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均と同等とするよう成果指標に加えております。</p> <p>施策2「児童生徒の豊かな心と健やかな体の育成」のうち、「道徳教育の充実」については全国学力・学習状況調査の生活習慣状況調査等で全国より比較的良い数字が出ておりますので、更に伸ばすような指標を設けたほか、「子どもの読書活動の推進」では学校図書館整備10か年計画に基づき図書標準冊数の100%達成を目指しております。「基本的生活習慣の定着」については、習慣の確立を目指すため啓発リーフレット「松浦っ子のよりよい成長のために」の内容（早寝早起き朝ごはん、家庭での計画的な学習、家庭でのコミュニケーション、家庭でのルールづくり）に沿った成果指標を設けております。「郷土を担う人材の育成」では、新たに「ふるさと教育」の全校実施及び小中学校連携による指導計画作成を成果指標としており、松浦高校での学びにも繋げたいと考えております。</p> <p>施策3「児童生徒の学びを支える学校づくりの推進」につきましては、現在小学校の授業で落ち着いて席につき授業を受けることが苦手な子どもたちが増えている中で、子どもたち個別の状況に応じた個別の教育支援計画による対応を成果指標としております。「子どもの心と向き合う教育相談体制の整備」については、以前発生した事案等も含め子どもたちのSOS発信を受け止める体制づくりに努めてまいります。「少子化に対応した活力ある学校づくり」について、児童生徒数の減少が今後更に進むことから、「第2次松浦市小・中学校適正配置基本計画」の策定及び市民アンケートの取組を行うものとしております。</p> <p>施策4「社会に開かれた教育課程の実現」のうち、「開かれた学校づくりの推進」について、コミュニティ・スクールの設置により、ともだビジョンにある「小学校区を中心としたまちづくり」に沿って進めてまいります。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>教育総務課関係分については47ページ以降をご覧ください。</p> <p>基本目標Ⅱ「安全安心で快適な教育環境の整備」として、それに向けた5つの施策を展開してまいります。</p> <p>施策1「学校施設整備の推進」では、学校施設の耐震化100%を目標にしております。令和2年度で鷹島小中学校の建築が終了いたしますので目標達成出来ると思います。</p>

<p>生涯学習課長</p>	<p>施策2「学習環境整備の推進」では、「情報通信機器の計画的更新と新たなICT教育環境への拡充整備」を掲げております。これは、本日の議題にもあがっておりますGIGAスクール構想の整備計画に基づくものでございますが、最終的な目標を「児童・生徒に1人1台」としてしております。他の施策につきましては第1期計画と同様でございます。引き続き努力してまいります。</p> <p>生涯学習課関係分については54ページ以降をご覧ください。</p> <p>基本目標Ⅲ「学校・家庭・地域の連携強化」として3つの施策を掲げております。</p> <p>そのうち施策1「学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進」では「地域学校協働活動の推進」として、先ほどの学校教育課説明のコミュニティ・スクールの導入に伴う地域学校協働本部の設置を進めたいと考えております。</p> <p>施策2「家庭教育の充実」では、保護者の家庭教育を行う力を向上させるため、PTAなどを通じて保護者間での情報交換の促進に力を入れたいと考えております。</p> <p>基本目標Ⅳ「生涯にわたる学びのサポート」として5つの施策を掲げております。</p> <p>そのうち、施策2「生涯学習施設の整備」では、「公民館の整備と管理運営」として、令和2年度に調川公民館の新築整備を予定し現在工事中です。令和3年度に公民館整備計画を策定することを目指す成果指標としております。</p> <p>基本目標Ⅴ「スポーツ・レクリエーション活動の推進」として4つの施策を掲げております。</p> <p>今回の新型コロナウイルス感染症の影響でオリンピック聖火リレーやインターハイなごなた大会ほかスポーツ関係行事が中止となっており、子どもたちの練習の成果が発揮できる場がなくなり残念ですが、新しい目標に向けて頑張っていただけるような施策に努めてまいりたいと考えております。</p>
<p>文化財課長</p>	<p>文化財課関係分については71ページ以降をご覧ください。</p> <p>基本目標Ⅵ「文化財の保護と文化芸術活動の推進」として4つの施策を掲げております。</p> <p>施策1「文化財の保存と活用」として、文化財をまちづくりに活かすことに主眼を置いた内容としております。</p> <p>施策2「文化財の情報発信」として、特に文化財の価値を多くの人に伝えることと、歴史に親しむ機会の提供として出前講座や体験学習に力を入れたいという内容としております。また水中考古学拠点を目指すための取組にも力を入れたいと思います。</p> <p>施策3「伝統文化の保存と継承」として、伝統芸能等の支援を行うこととしております。</p>
<p>市長</p>	<p>ただいま、第2期松浦市教育振興基本計画（案）について説明していただいたところですが、本日皆様にご協議いただくのは「松浦市の</p>

	<p>教育施策の大綱について」でございます。大綱は、首長が、教育学術及び文化の振興に関する統合的な施策についてその目標や施策の根本となる方針を定めるものとされておりまして、前回、平成27年に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づいて、平成27年度から平成31年度にかけての大綱を策定しております。その際は、第1期の大綱と、第1期の教育振興基本計画がそれぞれあったわけですが、文部科学省の通達によりますと、この教育振興基本計画を定めている場合に、その中の目標や施策の根本となる方針が大綱に該当すると位置づけることができると考えられることから総合教育会議において教育委員会と協議調整して教育振興基本計画の内容をもって大綱に代えると判断した場合は、別途に大綱を策定する必要はないとされておりまして。</p> <p>従いまして、ただいま各課から説明がありました第2期計画案の中で、まず皆様に疑問点やご提言等があれば、そのことを踏まえて、大綱に代えるべきものであるかを後ほどお諮りしたいと思います。</p> <p>それでは、皆様の方から何かご質問があればお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>(補足説明として) 同時期の策定となる「松浦市総合計画」の基本理念にある「育つ」「つながる」「根をおろす」の部分は、教育振興基本計画の中にある、「教育のまち松浦」をつくるために<大人が学び、大人が手本を示し、子どもも大人も共に育つ>の考え方が十分取り入れられていると思っています。市民皆様のご意見をひとつひとつ丁寧に取り入れ市議会で策定をしていただきました。これはまさに10年後の松浦市の目指す姿でありまして、それを実現するためにこの総合計画に基づいて施策を講じてゆかなければならないと思っています。ちょうど同時期に策定された総合計画とこの教育振興基本計画が同時スタートできるというのは、行政として施策の齟齬がなく非常に整った形になる、そういった意味も含め、皆様のご意見を賜ればと思います。</p>
<p>金井田委員</p>	<p>総合計画の記載内容についてですが、今後松浦に住みたいかどうか、という意見の中で「住みたくない」というのが多いですが、子どもたちの未来を考えると、魅力のあるまちを作らなければならないということですが、次の議題にあるGIGAスクールのような最先端の学校教育をしていただくことで、予算等のこともありますが、子どもたちにとっても住み続けたいまちになるのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>総合計画のその部分は、子どもたちへのアンケートの結果としての率直な思いだと受け止めています。なぜ子どもたちがそう思うのか、というところで、総合計画においては登場人物の「まつ・うら君」が周囲の人々に松浦について話を聞きながら最終的に「松浦がいいんじゃないか」と思うようになってくれますが、それはたぶん今の子どもたちも同じで、もちろん教育の意味で最先端を目指す必要性に今後迫られてくるとは思いますが、現状においても、松浦の良さを子どもた</p>

	<p>ちが十分に知らなかった、我々も伝えてなかった、そもそも大人も気づいていなかったのではないかと、そういうこともあると思います。例えば家庭での松浦についての発言など、親の影響は大きいと思っています。</p> <p>(総合企画を開き示しながら)「松浦は決して大きな町ではない、大きな町と比べて便利な暮らしができるわけでもない。」その通りだと思います。けれど、松浦には皆が誇りを持っていいものがたくさんあり、これからも住み暮らしたいと願っている人がいる、皆が気付くことが大事だという事を子どもたちと一緒に考えてほしいと思っています。今回の総合計画の体裁が従来と違う漫画風ということにも様々なご意見がありました、やはりこれからは全ての市民に松浦の良さに気づいていただき一緒になってまちづくりを考えていただくということから、子どもでも読める内容にして、全ての家庭にお送りしました。家庭だけでなく学校の総合的な学習の時間でも使い、松浦の魅力や改善を考えるツールとして使っていただきたい。そういった活動をしないと、子どもたちが松浦のことを好きだという率は増えず、それでは松浦の持続可能性は無くなってしまいますので、一緒になって考えていただく取り組みを進めたいと思っています。当然、足らざる分はたくさんありますので、そういったものをどう補ってゆくのか、財政の話はあまりすべきではないと思いますが、残念ながら人口減少により財政の余裕は無くなってゆく中で、どこに重要な資源を投入してまちづくりをやっていくのか、これも市民の皆さんとじっくり議論をしなければと思っています。その中で、教育は大事なものであり、将来を作る子どもたちがしっかり学んで考えていく機会を保障する、そのバランスを間違えないようにやっていくことは必要だと思っておりますので、ぜひそういった視点で今後ともご指摘をいただければと思います。(この後、総合計画の今後の周知やまちづくり推進体制等の予定について補足)</p>
教育長	<p>教育振興基本計画が教育施策の大綱に代え得るものであるのかということにつきましてですが、この計画自体、これまでの取組を分析し、今後の教育のあるべき姿や市の状況を踏まえたものとなっております。また先ほどの総合計画の柱も十分に踏まえながら作られておりますので、私としては、この大綱にしっかり耐えうるものであると考えております。皆様のご意見はいかがでしょうか。</p>
前田委員	<p>教育振興基本計画では、各課の目標とそれに向けての取組が様々な方面から考えられ、よく計画されていると思っております。特に先ほどありました「教育のまち松浦」をつくるために、の中にあります「あいさつで心かよう松浦」「奉仕活動で心みがく松浦」という身近な実践目標が出されていて、わかりやすいと思います。ふるさと教育についても、大変良い取組であり、義務教育から高校までしっかりとつながって市全体が活性化するために、総合計画に関して市長が話されたように、地域の良さに目が行くよう、私達も頑張らなければと思います。</p>

氏山委員	<p>総合計画は読みやすく、自分の子ども、絵本感覚で一気に読んでいました。私の家庭では、子どもたちも私たちも皆松浦が好きですが、その理由を考えますと、やはり学校や地域の行事に大人が参加して楽しんでいる姿を見せるということが大事だと思います。</p>
市長	<p>いくつかのご意見をお聞きしましたが、あらためて、振興計画をもって大綱の内容とすることについてのご意見はいかがでしょう。</p>
平原委員	<p>全てを網羅する総合計画に対して、振興計画は法に基づいた教育の最上位計画として細かく施策が計画されておりますので、これの実現を目指していただければ素晴らしいのではないかと思います。</p>
金井田委員	<p>鷹島地域について内容を見ますと、小中学校改築による耐震化の完成があり、鷹島神崎海底遺跡の記述もあります。観光誘致という点でも考えたいのですが、文化財・史跡の一覧がありますが、子どもたちはこれらの価値をよく知らないと思いますので、学校でも、実際に見学させ授業に取り入れたりしてはどうかと思います。</p>
市長	<p>さきほど学校教育課長から説明がありましたふるさと教育の中で、今の金井田委員のご指摘への取組が重点的になされるということになるのでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>ふるさと教育の中でしっかりと取り組まなければならないと思いますし、計画的に小学校から中学校へと計画的に進めることにより、子どもたちに学びを意識させなければならない、また松浦市の良いところを、実際にその場に行ってみることが大事だと思います。鷹島神崎海底遺跡は世界的にも誇れる遺跡ですので、見学の機会をどんどん作って行きたいと思います。</p>
文化財課長	<p>去年は体験学習として5校に来ていただいております。3年毎のアンケートでは周知度は約半分程度にまで達し、また鷹島に来た人数も増えてきておりまして、今年もまた調査をしたいと考えております。</p> <p>先ほどのご発言で観光の側面にも触れられましたが、文化財に関しては、活用する、ということ、今回の計画では重点的な内容いたしました。活用することで、郷土の誇りや経済活動に結び付けることも視野に入れた内容としております。</p>
市長	<p>やはり、元寇の歴史を鷹島だけでなく松浦全体の歴史としてとらえ、松浦党の歴史などもまた同様に、子どもたちに郷土の歴史として認識させることが大事だと思います。合併して15年目になりますので、市全体の歴史を知り、またご指摘のように人を呼び込むということも今後必要だと思います。そういった意味でも、今回の計画で具体的な数値目標も掲げられているところです。</p>

市長	ここまでのご意見を伺いましたところで、私といたしましては、この教育振興基本計画をもって、教育施策の大綱としたいと考えておりますが、皆様方からのご賛同はいただけますでしょうか。
全委員	(賛同の声)
市長	それでは、この「第2期松浦市教育振興基本計画」をもって、「松浦市の教育施策の大綱」に代えることといたします。
市長	それでは議題2「G I G Aスクール構想の加速による学びの保障について」まず、このG I G Aスクール構想について説明をお願いします。
教育総務課長補佐	別紙資料に沿って概要の説明をいたします。 (記録末尾「資料1」を読み上げて説明)
市長	このG I G Aスクールについては、当初から、国が強力に進める方針でしたが、コロナウイルスの影響で各学校が臨時休業を余儀なくされる中でリモート教育活動の必要性が増え、今年度中に一気に整備する状況となっております。いま説明があったように、6月の補正予算で児童生徒の3分の2まで対応しようと考えております。これは、文科省が今年度に行う整備まで補助対象とするよう前倒ししたことに応じたもので、残りの3分の1についても速やかに自主財源で行うよう要請されております。1人1台を謳いながら3人に2人しか持っていないとすると構想本来の意味にはつながらないで、十分配慮しながらやらなければいけないと思っております。 学びの保障については後ほど説明を受けて議論したいと思っておりますので、まず、いま説明を受けたこの構想の内容について皆様方との意見交換をしたいと思っております。
教育長	G I G Aスクール構想を説明した国の説明資料(末尾「資料2」)には、「教師は授業中でも一人一人の反応を把握」や「個人の能力に応じて別々の課題を提供して学ばせる」といった改善点が謳われていますが、正直、教室で一緒に先生の話聞きながら学びを深めていくという我々の経験した感覚からすると、果たしてそれは実現できるのかと、疑念を持っていました。しかし、今回の一斉休業のように、子どもたちが20日間も学校に行けないようなことになってきている、これではやはり対応できる環境を整えなければならないと、思いなおしたところです。日本全国でこの状況を踏まえた対策が進む中では、この取り組みをしないという議論はもう無いだろうと、ただ、どのように有効に活用するのかがよくわからない状況ではないかと思っております。この点について学校教育課から何かお話していただけますでしょうか。
学校教育課長	(末尾「資料2」を示しながら)まず、「個別最適化された教育の実

	<p>現」という部分がキーワードになるかと思えます。授業の流れで申しますと、教師が一斉に、例えば掛け算について黒板・電子黒板で解き方を説明し、子どもたちに例題をそれぞれの端末に配信して解かせ、教師は机間巡視しなくてもその様子を自分のパソコンで一斉に見て、理解の様子を即座に把握して理解が遅れている子どもに素早く助言をしたり、助言の様子を周囲に見せずパソコン同士のメッセージで直接指導をする、そういったことが可能となります。また、課題を先に解いた子どもが遊ばないように、自主的に追加の課題を探して先に進めるようにすることもできます。「主体的で対話的で深い学び」については、子どもたちが自分で編集したそれぞれの内容を数名のグループで整理する共同学習への活用などがこの資料に示されている内容と思われる。これらを実際に授業でスムーズに行うための研修が重要になります。導入によって有用となることはたくさんありますが、そのためには先生方が指導方法を変える必要があり、負担もかかりますので、それを軽減するための支援をするのが教育委員会の役割だと思います。</p>
市長	<p>今、事例を挙げて説明いただき少し見えた部分があるのですが、皆様のご意見はいかがでしょうか。</p>
前田委員	<p>難しい今の状況ですが、学びの保障については必ずやらなければならないと感じています。先日のテレビ放送で、オンライン授業の効果について、今まで発言をしなかった子どもたちが発言するようになってきた、という言葉は聞きましたが、一斉授業とは異なる子どもの積極性・主体性が見えてくる動きなど、学びの深まりが出来ているようです。また共同学習が簡単にできるようになれば、そこで他人の意見を聞いてまとめて、再び自分自身の考えを掘り下げることになります。他の先進国同様、今の難しい状況においては、オンライン授業などの格差の無い授業を受けさせなければ、将来に苦しい結果を残すこととなりそうですので、ぜひお願いしたいと思います。</p>
平原委員	<p>私も前田委員と同意見でして、ぜひこの機会をとらえてG I G Aスクール構想を進めていただきたいと思います。やはりいろんな学びの環境を広げるという意味では、時代の趨勢として必要とされていますので、よろしく申し上げます。</p> <p>先の説明の中で気になっている点として、具体的な通信方式に関し、無線LAN方式とLTE方式のうち新型コロナへの対応でLTE方式とする場合、皆が慣れていない中でどうだろうか、という懸念を持っています。それと、タブレット等の機械は更新時期がありますので、そのあたりは具体的にどうなっているかお尋ねします。もうひとつ、今年度は3分の2を対象とするということで、対象となる学年はどういうふうにするのか、考えをお聞きしたいと思います。</p>
市長	<p>まず、コンピュータの更新時期について事務局から説明してください。</p>

教育総務課長補佐	<p>およそコンピュータの耐用年数は5年が目安でして、故障しなくてもソフトウェアなどの動作環境が古くなり更新する必要があります。機種等によって違いますが、約6～8年が限度と考えております。</p>
市長	<p>3分の2の台数の学年等の振り分けについてはどうですか。</p>
学校教育課長	<p>現段階では小中学校ともに上の学年から、ということを考えております。(具体的にはまだ検討中です)</p> <p>先ほどの更新時期に関して、長崎県での共同調達を予定する中での説明会の情報では、OSの利用可能年数が一番長い機種が現在予定されています。</p>
市長	<p>校内無線LANとするかLTEとするかについてですが、どちらも共用できるという形はちょっと贅沢だろうと思います。学校では無線LAN、家庭での持ち帰りではLTEというのは理想ではあっても難しいですし、現在、松浦市情報基盤整備事業により飛島・黒島を除く松浦市内全域で光回線環境が整う予定ですが、各世帯が契約する必要があり、自ずと全世帯で通信環境が整うということにはならないと思います。そういった中で家庭のWi-Fi環境が無いと使えない端末を整備しても、今般のような事態に活用できない、ということになり、そうするとLTEの方が望ましい選択ではないかと、判断を悩んでいるところです。LTEの場合は通信費用を毎月負担することになりますが、大型契約ということもあり、一般利用者と比べると相当に安くなっているようですので、これから6月議会に向けて検討をしている状況です。</p>
金井田委員	<p>家では使えない、となると意味が無いと思います。今回のコロナショックもこれで終わりではなく、他の災害等も含め、次もあると考えると、持ち帰り利用できる整備をしてゆかなければ、と思います。</p>
市長	<p>そういった点を国も考慮し、所得制限などもあります。家庭に通信環境が無い場合にポケットWi-Fi機器を貸し出す計画も講じられているので、それらも含め検討し、いったんパソコン配置したら家庭でも使えるようにしなければならない、と思っております。</p>
金井田委員	<p>家庭利用の場合、一定の通信速度にしないと意味がないと思います。家庭や地区によって差が出ないようにしなければならないかと。</p>
市長	<p>そういった課題もあります。オンライン授業をされていて、データ回線が細いようでは支障があるでしょう。そのあたりはどうですか。</p>
教育総務課長補佐	<p>通信インフラの地域格差で申しますと、そういった部分を埋めるためのLTE方式を普及させるという施策の考え方がまずあります。また市長が話された家庭への機器貸し出しにつきましても、就学援助を</p>

	<p>受ける世帯に限られておりますし、そもそも家計と通信格差の状況は必ずしも一致せず利用形態も様々であり、市が一律に扱うというのは難しい部分があるのではないかと考えております。これらのことから、公平性と利便性を考えた上でLTE内蔵端末としてはどうかと考えております。ただし、端末の調達は年度内の遅い時期ですので、目下の緊急対策のため貸し出し用のWi-Fiルータを使うことも考えております。</p>
氏山委員	<p>学習面での必要もありますが、私としては家庭と学校を結ぶ人のつながりという点でも遠隔授業のインフラ整備が必要と思います。また機器の故障や使い方についての技術支援の人材配置も考えるべきかと思えます。</p>
市長	<p>そういったハード面も含めたアドバイザーの導入についてはどうなっているのでしょうか。</p>
教育総務課長補佐	<p>人材雇用（GIGAスクールサポーター）のための補助も今回の緊急対策に含まれていますが、従前からのICT支援員の制度も含め、ICT教育の内容を含めて全般的な対応を行うことができる内容となっています。これらの導入は自治体それぞれの考え方によります。</p>
前田委員	<p>ICTサポーターは、例えば市が研修の講師を依頼して学校の先生方に受講していただく、といった形になるのでしょうか。</p>
教育総務課長補佐	<p>GIGAスクールサポーターは、専門的知識のある人材を国が斡旋した人材や研修を受けた地元の人材に業務委託等で契約するような形が考えられているようです。</p>
金井田委員	<p>先生の負担を減らすためには支援員が必要になるので、やはり考えていただきたいと思えます。</p>
市長	<p>いま教育支援員なども雇用しており、子どもたちの学ぶ機会は確保してゆかなければならないと認識しています。その費用をどう捻出するかということについては、松浦市の財政状況の中でどの部分をそちらに回せるのか十分に配慮して対応したいと思えます。</p>
平原委員	<p>端末の導入は学校の先生方でも苦手にされる方もあるでしょうから、導入時の支援についても、市長にはよろしくお願ひしたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>最近ではスマートフォンの普及もあり、タブレット機器の習熟も進んでおり、導入の支援となるアプリなども開発されていますので、最初に学校にパソコンが入ってきた頃ほどの抵抗感は無いと思えます。まず使いやすいものから少しずつという視点で、負担をかけないよう進めて行ければと考えております。</p>

<p>市長</p>	<p>県で共同調達をすることから、端末の種類が県内で揃うということになります。先生間での相互研修や、情報通信の機能を生かした支援ができるのではないかと思います。ただ、導入してすぐに完璧に使いこなすというのは無理だと思いますので、必要な支援措置を我々も県市長会などを通じて国に求めるなどしなければならぬと思います。</p> <p>このコロナ禍での経済対策もそうですが、それぞれの基礎自治体の財政状況による支援では明らかに格差が出ます。格差の対策なのに財政で格差が生じる点は国にしっかり求めて行く姿勢が必要で、一方、行政に求められているものについてはちゃんと対応できるよう予算の配分をしっかり考えたいと思います。GIGAスクールのハード面の整備については、6月市議会への補正予算を計上し、国の補助により3分の2までを年度内に整備する予定としており、その運用についてもご指摘のあったものを踏まえ対応したいと考えております。</p> <p>続いてGIGAスクールの学びの保障の部分について、学校教育課から説明をお願いします。</p>
<p>学校教育課参事</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業に伴い、教育現場ではこれまでどおりの学力保障が危ぶまれている状況にあります。そこで市として今やるべき学力保障について、資料を基に説明させていただきます。(記録末尾「資料3」参照)</p> <p>まず現状ですが、昨年度末までに学習予定だった内容の積み残しがあります。それを4月の初めにそれを補って行うため、その分の授業時数について夏休みを6日間縮めて確保するようにしていましたが、また4月22日からの臨時休業となりました。</p> <p>臨時登校日などを設けて家庭学習の状況把握をしてはしましたが、それでも、学校間の取組内容の差異の把握、また内容が学習計画に位置づくものであるか把握するということが市教委として十分に出来ているか、というところに課題があると考えております。また、大きな課題としまして、児童生徒が家庭学習に取り組む中での疑問に対応する体制が整っていない、つまり、双方向型の学習に至っていないことが大きな課題だと思います。このことを解消すべく市教委が行う取組として、GIGAスクール構想がどうなるかわからない現状の内容と、今後検討してゆく内容で色分けして記載しております。まず、現状の取組を記載したピンク色の部分ですが、臨時休業中は子どもたちが計画的に自分で家庭学習に取り組む力を育成しなければならないと考え、具体的なイメージとして、予習ができるよう、教員からの学習の進め方の提示を使って自ら学習する力を育てるようにと考えています。同じくピンクの部分で、学習教材・無料動画等の情報紹介、特に文部科学省のホームページにある子どもの学びの応援サイトにある様々な学習の取り組み方等が紹介されていますので(各企業サービスの実例を紹介)、これらを学校に紹介しております。ただし、これらの教材等を有効活用するためには、公費でICT環境を整える必要があると思いますが、ここで課題となるのが、各家庭のインターネット環境に関するアンケート調査結果の資料(添付省略)にあるとお</p>

	<p>り接続環境が無い約5%の世帯があること、更に保護者が仕事で不在の時間帯には接続環境が無いと考えられる世帯があることです。</p> <p>これから検討すべき内容及び課題を記載した黄色の部分ですが、双方向型の授業のための授業動画の作成配信を個人端末の無い状況で行うための動画サイト限定公開等や、個人端末配置後のデジタル教材及び電子黒板を活用したより質の高い授業、健康観察・生活習慣づくりとして配信アンケートによる状況把握とコミュニケーションづくり、ソフトウェアを活用して個別対応が可能な学習問題の配信・添削などがあります。こういったものの活用で学力の保障が来てゆくのではないかと考えております。</p>
市長	<p>臨時休業の課題を受けてその学びの保障をどうするのか、という課題と、このGIGAスクールの整備によって新たに生まれる学びの保障との2点が、今日の議題になるのかと思います。</p> <p>まず1点目について、皆さんが気にしておられることについてご意見をいただきたいと思います。</p>
平原委員	<p>密閉・密集・密接とあり、前2者はともかく、密接が悪い意味になってしまっている状況ですが、アナログであろうとデジタルであろうと密接でなければならないと私は思っています。相対が難しいならば動画通信や電話でもいいので、成長過程の子どもには密であって欲しいと強く思っています。ぜひお願いします。</p>
前田委員	<p>私も授業をしているときは、励ましたり、労ったり、温もりを持ちながら動いていくことが多々ありましたが、それが無くなっている状態だと思うので、せめて、休業中に家でなにかあったときに、学校に行って誰かに話ができる状況もどこかに置いていただきたいと思ったりもします。</p>
金井田委員	<p>今の状況で、夏休みはどのようになるのでしょうか。</p>
市長	<p>3月休校の時点でも夏休みが少なくなると報道されていますが、このあたりはどうでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>先ほどの説明にもありましたが、昨年度の振り返りや学びなおしを4月の初めにした分、夏休みを6日間短縮して行うとしておりました。先日、志佐小学校に取材があり校長先生へのインタビューも放送されましたが、小学校は1学期の終わりを7月30日まで遅くして、中学校は県中体連との日程の関係もあり異なる日程で、2学期を8月24日に早めてスタートするという形で夏休みを短縮し、学びの保障をやってゆきたいと考えているところです。</p>
金井田委員	<p>決定でしょうか。</p>
学校教育課長	<p>決定しております。</p>

氏山委員	<p>保護者としては、夏休みは少なくとも良いとは思いますが、先生方が大変だろうと思います。</p>
市長	<p>全ての子どもたちに影響していることですが、とりわけ受験を控えている中学3年や高校3年にとっては深刻だと思います。全国・県内ほぼ同じような状況ですから、競い合う環境の差というのはそれほど無いかもしれませんが、でもやはり、学ぶ機会がそれだけ少なくなっていることは問題です。大学受験においては学びなおしをしっかりとやっている予備校生が有利で現役生と差が出ると新聞記事にありましたが、全ての学年がそれぞれ習得すべき授業をどう取り戻すか、先生方は大変だろうと思います。鷹島小中学校だけが建て替え中のため来年までエアコンが未設置で大変申し訳ないのですが、他の学校は設置済みですので夏休みの暑さ対策についてはなんとかなると思います。教育委員会の方で各校長先生と連携をして、少なくともコロナによって不足する部分は補うよう頑張ってくださいということです。</p> <p>一方、GIGAスクール構想による学びの保障という点で、先ほど説明がありました中での今後の検討という部分についてはいかがでしょうか。今後、1人1台が実現できれば、先のご意見にもあった、休業期間中でも子どもたちと向き合っの対応ができる、場合によってはなかなか学校に来られない子どもたちとのコミュニケーションがはかりやすくなるように思います。ただひとつ気になっているのは、報道されていた児童虐待事案の中で、子どもがプリントに書いた被害内容が加害者に漏れたといったことがありましたが、双方向個別通信の環境で、記録として残った内容が同様になってしまうとすればそれは避けるべきだと思います。このあたり、何か議論になっていますでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>その事例を想定した議論はしておりませんが、児童虐待に関しては悩みをそこから発信するとなればご指摘の危険性はあるかと思しますので、使い方としては、文字でのやり取りは十分慎重にして、それよりは通信中の映像の中の児童生徒の態様などから気づくといった活用ができないかと考えています。</p>
教育総務課補佐	<p>そのことで、情報セキュリティという部分で補足説明をします。現在導入を計画している機器の設計としては、基本的にはクラウド仕様、端末に情報を残さずネットワーク上にのみ置かれるようになっています。この環境の場合、認証手順により子どもが使う時にだけ情報を引き出すことができる、それ以外では親はアクセスできない、という仕組みをつくることは可能です。ただし、運用については難しい部分もあるように思います。</p>
平原委員	<p>プラス面もあればマイナス面もあり、怖い部分もありそうですね。</p>
市長	<p>新たな課題が生まれてくると思います。しかし最初の方で平原委員</p>

	<p>もおっしゃったように時代の趨勢でもあり、やらなければならないと思います。前田委員のご意見にもありましたように、世界の標準からの格差が生じるようでは国としても駄目だと思いますし、金井田委員のご指摘のように地方自治体として格差を生じさせないような保証ができるよう、最大限に頑張らなければならないと思います。</p>
平原委員	<p>こういった新しい環境への対応など、学校の先生方が大きなストレスを抱えて仕事をされている状況ではないかと心配しています。</p>
市長	<p>ほんとうに先生方も、国がどんどんいろんな方針を変えていく中、10年前とは全く違う状況に常に対応しながら、子どもたちと向きあわなければならないということでストレスがあるだろうと思います。本当はこのGIGAスクール構想はそういった負担を少なくするという内容も謳われているわけですが、どうでしょうか。</p>
氏山委員	<p>うまく使いこなせるようになれば、先生方にとっても板書やプリント準備など、省力化につながると思います。</p>
教育長	<p>様々な効果があるこの構想については、ぜひお願いしたいと思いますが、特に遠隔教育の実現に関しては、近くに大学や大きな図書館、美術館も無い、ある意味で教育過疎地といえないこともない松浦市の状況や、小規模校での課題もある中で、弱点を補う大きな力になる気がしております。その面でも期待をしている事業です。皆で知恵を絞りながら取り組みたいと思います。</p>
市長	<p>この構想については、子どもたちが端末を手にとって使えるようになるということで、行政として、整備後の活用については、義務教育だけでなく、地域全体の学びにつながるような活用策を考えたいと思います。ひとつの例として、まだ具体的ではありませんが、松浦高校でこれまで取り組んでいた地域協働教育活動「まつナビ」が本年度から文部科学省の事業採択を受けましたので、今後その地域連携の枠組みの中で、長崎大学とも教育委員会にあるサテライトオフィスなども通じ連携しながら、このGIGAスクールの環境を活用することができると思います。そういった部分との連携を図ることで、まさに松浦市が総合計画に掲げた、子どもたちが地域を知って、地域のことを学びながらいろんなことを身に着けて、大人も一緒になって学んでいく、そういったところまで連携が出来れば、と思っています。具体的なアクションにはまだ時間がかかりますが、そういった構想も持ちつつ、このGIGAスクール構想に対応したい考えですので、今後も様々な場で皆様のご意見をよろしくお願いします。</p>
市長	<p>ほかにご意見などありませんようでしたら、協議についてはこれで終わりました、続いて、「その他」に移らせていただきます。 皆様から何かございませんでしょうか。</p>

金井田委員	報道などされています、9月入学に関して、教育委員会の中でそういった話はありませんでしょうか。
学校教育課長	その件につきましては、先日に新聞社からの取材にも回答しましたが、現段階では松浦市としては9月入学ということは考えず、今は子どもたちの学びの保障をどうするか、子どもたちが学べなかった部分をどのようにして支えていくかを重点にして、国の動向がわからない段階では課題とせず、今やれることをしっかりとやっていくことが先決だと考えております。
前田委員	コミュニティ・スクールなど新しい取組をされていますが、例えば、福島地域にある「ふるさと祭り」の話し合いなどに、関心を持っている中学生、生徒会などが参画するような場などについても、同様の取組としてできるものでしょうか。
市長	コミュニティ・スクールが該当するかは次に説明をいただきますが、ともだビジョンの小学校区単位のまちづくりに関して、今年度、福島地区区長会へ取組をお願いした内容としまして、区長会やPTAなどの各種団体を横軸で結ぶ協議体としての「ふるさと祭り懇話会」をまちづくりに活かさないかという話をしておりまして、具体的な取組をお願いしているところです。今のお話のように、他のイベントも含めて子どもたちも入れて、一緒にまちづくりについて考えるということも提案して良いと思います。去年の祭りでも子どもたちがアジフライバーガーを作ったり米を売ったりしていましたし、地域の活動を学校が中心にやっていくことは出来ると思いますが、いかがでしょうか。
学校教育課補佐	おっしゃるとおりだと思います。どんどんアイデアを出すような場になれば良いのではないかと思います。
市長	では、次回の会議について事務局からお願いします。
教育総務課長	総合教育会議は、年3回、学期ごとに行うことにしておりますので、次回は11月か12月に開催を調整したいと思っております。皆様から議題のご提案がありましたら教育委員会定例会の場でお伝えください。
市長	首長が教育施策の大綱として教育行政についての考え方を示す上で、総合教育会議に議論をすることが大事ですので、皆様の方から、ぜひこの議題を深めて話をしたい、ということがあればご提案をいただきたいと思っております。 他になければ、以上をもって、令和2年度第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

GIGA(ギガ)スクール構想に基づく松浦市小中学校ICT整備の概要について

「GIGAスクール構想」において国が示す基本的考え方について

- ・ 児童生徒1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークの一体的整備により、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。(具体的な実施効果については別紙の文科省作成資料を参照のこと。)
- ・ 整備事業は国庫補助を受けた自治体等の学校設置者が実施し、令和2年度から5年度までに整備を完了するものとする。
- ・ この事業は遠隔教育の導入促進にも繋がり、今般の新型コロナウイルス感染症拡大のような緊急事態における「学びの保障」にも効果があるため、令和2年度中の整備率の進捗を更に加速するよう計画を修正した。

松浦市における学校ICT整備・利活用の現状及びGIGAスクール構想への考え方について

現在、市内全小中学校のパソコン教室に児童生徒4.8人あたり1台の学習用コンピュータを揃え、総合的な学習における調べ学習やプログラミング教育などに活用されている。また全ての普通教室に電子黒板を配置し、出版された電子教材、インターネット上の視聴覚教材コンテンツや行事等の記録写真・動画の視聴など、従来のビデオや投影機等からの発展的な活用がなされている。一方、高速大容量通信ネットワークの整備についてはインターネット接続のための光回線の未提供区域が市内の一部に残されているが、令和3年度までに市が別途に進める事業により解消される予定である。

以上のように、全国平均の水準と比べても遜色の無いICT教育環境ではあるが、GIGAスクール構想においては、およそ全ての授業で、全ての教師と児童生徒が1台ずつコンピュータを手にして学習するための更なる環境整備が求められている。今後、全国で1人1台が標準化するような状況下で、この整備を実施しない地域においては周辺地域との教育的格差が生じる懸念があるなど、事業の必要性は極めて高いが、一方で新たな財政負担が増えるため、長期的な視野に立った費用対効果を勘案して計画しなければならない。

松浦市の今後のICT整備方針について

- ・ 今後の松浦市の教育振興のために必要不可欠な事業であると判断し、児童生徒1人1台のコンピュータ整備について、国が目標とする期間内に、周辺自治体と歩調を合わせて実施をするものとしたい。また、令和2年度から令和6年度を計画期間とする「第2期松浦市教育振興基本計画」に実施目標項目として設定するとともに、「ともしビジョン」における「松浦の「ひと・こと・もの」を活かした学校教育の充実」を達成するためのひとつの手段としてこの事業に取り組むものとする。
- ・ 具体的なスケジュールとして、令和2年度中に全児童生徒の3分の2(新型コロナ対策による前倒し分を含む)について可搬性の高いタブレット型コンピュータを導入し、これらが高速大容量インターネットに接続可能な環境を整備するための費用と併せ補正予算として6月議会へ議案を上程し、可決後、年度中に実施したい。更に令和3年度以降、なるべく速やかに残りの台数を整備するように計画したい。
- ・ 整備にあたっては、学校現場における効果的な利活用が図られるよう、想定される多くの利用場面に対応する機能を備えつつ、必要以上の高機能は求めず、運用における利便性及び管理・更新サイクルコストにも優れた機器及び通信方式の選定を行うこととする。

整備に向けて検討すべき課題等について

- ・ 単に1人1台を整備するのみでは効果的な事業効果が得られないことによく留意し、日々の教育において教師と子どもが自主的かつ積極的に利用できるような柔軟で簡素な利用指針と管理手順を構築するとともに、国が今後各庁横断的に進める「未来の学び」に向けた各種事業や松浦市が今後取り組むべき地域振興策とのマッチングを図る必要がある。特に、この事業によって学校の情報発信と地域間交流の大幅な能力向上が期待されるので、その特質を生かして地域振興と教育力向上の相乗効果が得られるような、学校・家庭・地域の協働に資する仕掛けを考案していく必要がある。
- ・ 整備方式について、学校ネットワークに接続する無線LAN方式と、コンピュータを直接携帯通信網に接続するLTE方式の二つの方式のいずれか又は併用する選択肢があるが、比較において費用と利便性にそれぞれ一長一短があり、慎重な選択が求められている。特に現在の重要課題である感染症拡大による学校休業への非常時対応について国の方針に従い1人1台の整備と組み合わせる場合、学校のみでなく各家庭での通信環境も確保するためにLTE方式の利用が必要と思われるが、大量調達の関係からコンピュータの調達が目下の対策に間に合わない可能性も踏まえ、まずは早急に着手することを念頭に、簡略化や代替方法を検討しなければならない。
- ・ 現在整備が完了しているパソコン教室のコンピュータ及び電子黒板、また教職員が校務用に使用するコンピュータも含め、今後のICT整備計画の中でどのように更新を図っていくか、中長期の財政計画に照らして判断する必要がある。電子黒板は1人1台環境において更に利用場面が増えることが期待されるが、パソコン教室用のコンピュータは順次GIGAスクール仕様に置き換えながら規模を縮小する必要がある。校務用コンピュータは今回の事業と別途に更新しつつインターネットからの分離も行う必要もあり、検討を要する。

「1人1台端末・高速通信環境」がもたらす学びの変容イメージ

GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 学習活動の一層充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

	「1人1台端末」ではない環境	「1人1台端末」の環境
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> 教師が電子黒板等を用いて説明し子供たちの興味関心意欲を高めることはできる 	<ul style="list-style-type: none"> 教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる → 子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> 全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学びは困難) 	<ul style="list-style-type: none"> 各人が同時に別々の内容を学習できる 各人の学習履歴が自動的に記録される → 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に
協働学習	<ul style="list-style-type: none"> グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい(積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に) 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる 各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる → 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる

「1人1台端末」の活用によって充実する学習の例

- ☑ **調べ学習** 課題や目的に応じて、インターネット等を用い、記事や動画等の様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- ☑ **表現・制作** 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- ☑ **遠隔教育** 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
- ☑ **情報モラル教育** 実際に真贋様々な情報を活用する各場面(収集・発信など)における学習

ステップ1 “すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも” 活かせる1人1台端末

例えば...

🌱 検索サイトを活用した調べ学習

- 一人一人が情報を検索し、新聞記事や動画等を収集・整理する
- 子供たち自身が、アクセスした様々な情報の真偽を確認・判断する

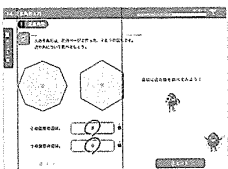


🌱 文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

- 子供たち一人一人が自分自身の考えをまとめて共有する
- 共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合う

🌱 一斉学習の場面での活用

- 定理や史実等のイメージを持ちやすくなるデジタル教材を提示する
- 一人一人の反応や考えを即時に把握しながら、双方向的に授業を進める



🌱 一人一人の学習状況に応じた個別学習

- 学習者用デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化する
- 特別な支援を必要とするなど様々な特徴を持った子供たちに対して、よりきめ細やかな対応を行う

ステップ2：教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。

例えば...

国語

書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる

- 文章作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言し合う
- 文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲し、データを共有する



理科

観察、実験を行い、動画等を使ってより深く分析・考察する

- 観察、実験を動画等で記録することで、現象を科学的に分析し、考察を深める
- 観察、実験のレポートやプレゼンテーション資料などを、写真やグラフを挿入するなどして、一人一人が主体的に作成する



外国語

海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、児童生徒の発信力を高める

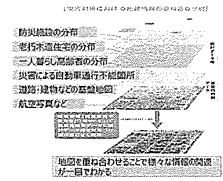
- 一人一人が海外の児童生徒とつながり、英語で交流・議論を行う
- ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、児童生徒のアウトプットの質と量を大幅に高める



社会

国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する

- 各自で収集したデータや地図を重ね合わせ、情報を読み取る
- 分析した情報を、プレゼンソフトでわかりやすく加工して発表する

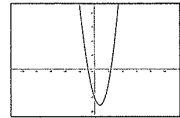


(国土交通省HPより引用)

算数・数学

関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する

- 画面上に表示した二次関数のグラフについて、式の値を変化させて動かしながら、二次関数の特徴を考察する
- 正多角形の基本的な性質をもとに、プログラミングを通して正多角形の作図を行う



(二次関数の特徴を考察)

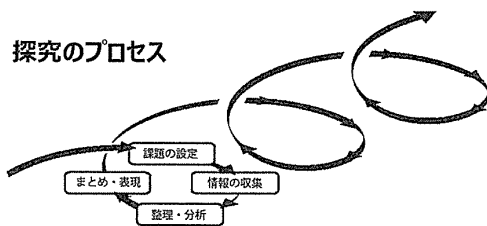
ステップ3：教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。

ICTを含む様々なツールを駆使して、各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育※

※Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用することができる

探究のプロセス



課題の設定

実社会の問題状況に関わる課題、進路や教科等横断的な課題などを設定

情報の収集

文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等

整理・分析

統計による分析、思考ツール、テキストマイニング等で分析

まとめ・表現

論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信

※STEAM教育の推進方策については、現在文部科学省の中央教育審議会で議論中

経済産業省「未来の教室」実証事業の取組

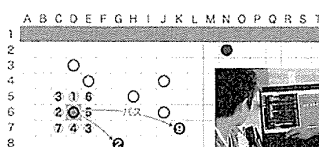
農業高校×IoT/ロボティクス/プログラミングのSTEAMプログラム

農業高校において、生徒が見つけた農業の課題を解決すべく、IoT活用によるデータ解析、ロボットやプログラミングの演習を実践。東京と北海道の学校をつないだ共同研究も実施。



体育(タグラグビー)×プログラミング×数理のSTEAMプログラム

タグラグビーの実践と、模式化したAIゲームによる戦略立案を試行錯誤。算数やプログラミングの感覚と、身体表現をつなぐ学びを実現する。



今、やるべき学力保障対策(新型コロナウイルス感染症対策にかかる臨時休業期間の取組)

松浦市教育委員会

【現状】

- 3月の臨時休業により、前学年の学習に積み残しがあった。4月初めの一週間を使って前年度の学習内容の指導を行った。
- 本年度の学習に取り組む時期が一週間遅れた。これを補うため、夏季休業を6日間縮めた。
- 4月22日から再び臨時休業となり、この期間の学びを保障することが必要である

20日間で失われた授業時数

	国語	算数(数学)	社会	理科	外国語	合計
小1	36	16	生活12			64
小2	36	20	生活12			68
小3	28	20	8	10	4	70
小4	28	20	10	12	4	74
小5	20	20	11	12	8	71
小6	20	20	12	12	8	72
中1	20	20	15	15	20	90
中2	20	15	15	20	20	90
中3	15	20	20	20	20	95

※技能系教科等を除く



教育委員会の取組

子どもの学びを保障するためにやるべきこと

臨時休業等において計画的に家庭学習に取り組むことのできる力の育成


- 「自分で学びを進める」学習の推進
→予習指導、「学習の進め方」の提示を使って自ら学習を進めることができる力を育てる。
- 教職員研修によるワークシートの作成、学習評価の在り方、学習の見取りの仕方等を例示する。

学習教材・授業動画等の情報紹介

- 「子供の学び応援サイト」文部科学省
- 「e board」(無料動画教材)
- 「Google フォーム」を活用した生活・学習状況アンケートの実施
- NHK for school 番組の活用
- 「こどもちゃれんじ」benesse の活用

〈今後検討していく内容〉

授業動画の作成・配信(双方向の授業)

- 「You Tube」(限定公開)で担任からのメッセージや授業動画等の配信。(動画視聴ができない家庭には DVD を配付)
- デジタル教科書の導入
- 健康観察・生活習慣づくり
- 学習問題の配信 

人的サポートの必要性
PC・タブレット環境の普及
デジタル教科書の導入

市内小・中学校の取組

〈5月7日時点〉

- 家庭で取り組むことができる学習プリントの配付
- 臨時登校日の設定
(家庭学習進捗の確認、学習指導、心身の健康状態のチェック)
- 家庭との連絡・連携

〈今後の取組に求められること〉

- 市内小・中学校の学校間での取組や履修内容についての足並みを揃える。
- 家庭学習における「自分で学びを進める」学習の推進を図る。
- 児童生徒の学びの見取りの指標として、市学力調査を活用する。